

松 楓

創立 100 周年
記念号

令和5年9月1日 発行

題字 故 井上知真元校長

47



水彩画「黒板アート」 24回卒 市川光男

埼玉県立飯能高等学校校歌

町田多加次 作詞
鈴木宣彰 作曲

一、雲光る

仰ぎみる
碧き多峯主
眼差しさやか

若き我らが
生命燃えて
高鳴る胸よ
学びの庭に
師とともに

ああ限りなく
ここ飯能の
友よいざ
励み鍛へん
三歳の秋を

二、夕靄の

縫いめぐる
天地の間
人間の水に
思念浮かべ
星霜偲ぶ

若き我らが
ああ流れゆく
ここ飯能の
学びの園に
師とともに

三、大空は

武蔵野に
暁のいろ
陽はまた昇る

若き我らが
ああ唳々と
吹く朝風よ
学びの窓に
師とともに

ここ飯能の
友よいざ
謳い歩まん
青春の日を

昭和50年制定

新たな100年に向けて

23回卒 会長 澤田 清志
(飯能市在住)



月末を持って解散をし残された記念誌や残金等は、同窓会が引き継ぎを行いました。

飯能高校は、昨年度創立100周年の記念事業を総て終了することができました。ひとえに6年という時間を掛けて、丁寧に話し合われてきた実行委員会の方々、そして多くの卒業生のお力添えによりです。本当にありがとうございます。3

春2月、最後の事業でありました記念植樹をした「しだれ桜」。折しも飯能南高等学校と統合し、「新校としての飯能高等学校」がスタートした4月、枝先にわずかでしたが花を何輪かきれいに咲かせておりました。校門を入り左側、道路に面した桜の木々

の中に一本だけ、まだ若くて細い幹ですが、生徒たちの活躍を見つめつつ、これから毎年、少しずつですが多くの花を咲かせてくれることでしょう。母校を訪れる機会がありましたら、ぜひご覧いただけたいと思います。さて、新型コロナウイルスの影響でこの3年、役員会による審議・了承・報告という形の「定期総会」、今年度は、4年ぶりに多くの方々に参加をいただき、飯能高校を会場に行うことができました。祝宴はまだ自粛とし、新校としてリニューアル中である校舎内をぐるっと見せて頂くことができました。今年度中も夏休みを

中心に工事は続くようですが、新校として変わりつつあるようです。様子は、飯能高等学校ホームページ、学校紹介の「360度パノラマツアー」でご覧いただけます。さあ、新たな100年がスタートしました。同窓会報『松楓』も、多くの先輩・後輩の方々も、多くの先輩・後輩の方々も、活躍やら、在校時の思い出やら、お一人お一人の思いがその中に織り込まれています。在校生にとっては、これからの進路選択に役立つ情報もあるのではないのでしょうか。矢島校長先生の言葉の中でも、「進学校へ」「文武両道校として」

という言葉が多く聞かれるようになりました。これからも生徒さん方のさらなる活躍を期待しつつ、同窓会といたしましても、多くの同窓会員のお力をお借りしながら、応援をして参る所存です。

お詫びと訂正
松楓46号に誤りがありました。「先輩・後輩 欄、お二人の居住地の誤りです。」
18回卒・細田豊氏(日高市↓飯能市)、38回卒・西島正樹氏(飯能市↓人間市)
お詫びして訂正をいたします。

魅力ある新生飯能高校を目指して

校長 矢島 得充



校長2年目を迎えました矢島でございます。同窓会の皆様には、平素より本校の教育活動に対して特段の御理解・御協力をいただいておりますことに心より感謝申し上げます。

さて、令和4年度は本校にとりまして、創立100周年の大きな節目の年となり、記念式典並びに祝賀会、記念事業を盛大

に執り行うことができました。これも偏に6年の長きにわたり、木川一男会長様のもと、100周年実行委員会の各部会の皆様を中心に御準備くださったおかげと存じます。この場をお借りして、重ねて御礼申し上げます。すでに御案内のことと存じますが、本校は今春、飯能南高校と統合し、「進学を重視した地域と協働する高校」として歩み出しました。単位制の導入により、多様で教科横断的な科目を

設置した教育課程を編成し、これまで培った探究的な学びをさらに発展させ、これからの新しい時代に求められる資質・能力を育む教育を実践してまいります。また、難関大学への進学を目指すために「特進クラス」を設置し、ハイレベルな授業や補講はもちろん、通い合宿やイングリッシュキャンプなど学力を伸ばす取組と向学心を育てる取組を行ってまいります。これらの学びを支えるため、ICT教室やアクティブラーニング室、ラーニングコモンズ室(自習室)など先進的な学習環境も整備しました。特にラーニングコモンズ室では、学習サポーターが常駐し、放課後や長期休業中など

に生徒の主体的な学びを支援します。本校の近況ですが、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、計画どおりに教育活動を展開しております。6月1日の体育祭は、ほぼコロナ禍前の形式で実施ができ、生徒たちの笑顔や躍動する場面が随所で見られ、行事の大切さを再認識する機会となりました。また、部活動においては、ホッケー部が男女ともに7月末に北海道で行われるインターハイへの出場を果たし、バドミントン部や卓球部、陸上競技部等が県大会に出場し、県内外に飯能高校の名を馳せてくれました。さらに野球部や男子バスケットボール部

をはじめとする部活動では、部員数が大幅に増え、グラウンドや体育館が活気に満ちております。学校としましても、今後とも部活動を積極的に支援してまいります。最後に御案内のラーニングコモンズ室内に「同窓会資料室」を設置しました。これまでの歴史的な文書や写真など保管できるような準備を進めております。2階のフレキシブルラーニング室と併せて同窓会など開催する際に御活用くだされば幸いです。今後とも同窓生の皆様をはじめとした地域の方々のお力添えをいただき、地域とともに歩む魅力ある新生飯能高校となるよう努めてまいりますと存じます。

寄稿

同級生と飯能公演



29回卒
川俣しのぶ
(越生町出身)

子どもの頃私はどこか生真面目で、いいかげんな人を理解できなかつた。けれど。まてよ。なぜ私はそんなことに目くじら立てているのだ？子どもながらに生きづらさを感じていた私は自分も一度そちら側に行ってみれば良いではないかと思ひ、よし高校生になったらタガを緩めてみよう！そう決めたのを明確に覚えている。

そんな訳で私の高校生活はユルイ。緩めるのは簡単だった。部活に情熱的になるでもなく勉学に励む事もなく、いいかげんな高校生。通学は八高線。毎朝私は越生駅へと続く川原の土手を走っていた。八高線は本数が少ない。乗り遅れたらしつかり遅刻だ。生真面目の片鱗を残す私は遅刻は駄目だと思ひ、ユルイ私は早起きなんてしたくない。

こんな矛盾を繰り返し受け入れていた。そしてその頃自分が将来役者になるなどは夢にも思っていなかつたのだ。

多摩美術大学卒業後、私は「夢の遊眠社」という劇団に入団。以後役者として今も地道に活動している。(劇団はとうに解散したが)

ある日私の所属する事務所に飯高時代の同級生から丁寧なお手紙が届く。原口喜代美さん。彼女が当時務めていた入間市の文化施設アミーゴで芝居をしませんかというお誘ひ。彼女の思ひは普段演劇に触れる機会のない方々にも気軽に足を運んで観て体感してほしいという主旨だった。私はそれまで自分で舞台をプロデュースして立ち上げるという経験がない。これは困った。なぜ困ったかというと私はやる気になつていなかったからだ。台本を選びキャストを決め演出家

を決め稽古場を手配しセリフを覚え稽古の日々。たくさんの仲間に協力してもらいアレヨアレヨと本番を迎えた。劇場には懐しい同級生の顔が。みんな客席から応援してくれた。不条理劇でやや難解な芝居だったけれど楽しんで頂けた。(と思う。)

これをきっかけにその後原口さんと2本の舞台を飯能で上演することになる。彼女は芝居好きは勿論のことパワフルでフツトワーク良く否定的なコトバを使わない。どれだけ助けてもらったことか。飯高近くにある絹甚という空間をみつめて来てくれたのも原口さんだ。ここは元は蔵であり独特の雰囲気劇場ではない場所。観客との距離は近い。反応は怖いが価値ある企画だった。



東松山市民文化センターでの公演
演目「枇杷の家」柳原薫役

ここでの本番開演前、舞台裏で待機していると客席から賑やかな声が聞こえてきた。声で分かる。飯高の友だちのどっかい声。私は苦笑い。今ここでしか味わえない感情が湧く。3年間通った飯高の近くで私は同級生の力を借りて芝居を演じようとしていた。絹甚の客席で小さな同窓会が始まっているようだ。

ドキドキしながら舞台へと一歩足を踏み出した。この公演中、私は母校にも行ってみたい。校門の前に佇み校舎を眺める。ここに来るのは何十年振りだろう。あの頃の私たちのたわいないお喋りや聞き覚えのきそうな気がした。



右の写真は飯能絹甚公演での同級生との写真です。前列右端が原口喜代美さんです。

喜寿の祝

体内年齢61歳…!



17回卒
砂長 恒夫
(飯能市在住)

高校での3年間は、毎日、卓球の練習で明け暮れしてました。大学進学後は、後輩のコーチとして毎日体育館に通い詰め、男子団体に関東大会に出場させることができた思い出がよみがえります。

大学卒業後、男性美容師を目指し美容学校へ。続けていけば、今頃フランスのバリに在住していたかもしれない(?)

25歳の時、結婚を機に入間市から飯能市へ移住。その後、28歳の時、仲間と印刷会社を設立し、社長に就任。好景気で徹夜も多かった忙しいバブル期を過ぎた経験は今も忘れません。現在も、好きなデザインを活かし印刷業を続けています。

54歳を迎えた時、仲間の薦めや応援を得て、飯能市議会議員選挙に立候補し初当選、以後5期20年の議員生活を務めることができました。

2回の議長をはじめとする要

職を経験したことは大きな財産として残っていますし、大切な「宝物」として心に刻んでおられます。「父親からは、何でもいいから一番をとれ」と言われていました。議長はその一番に値するものなのか?もし父親がいれば、きつと誉めてくれていたかもしれない気がします!

若いころから運動することが好きで卓球や地域で盛んだったソフトボールに青春を注いでいました。特に団体スポーツであるソフトボールに魅了され、縁あって現在、飯能市ソフトボール協会の会長職に就いています。77歳になった現在も、飯能のシニアソフトボールチームに所属、監督として県西のリーグ戦に参戦しています。もちろんレギュラーとして先発出場もしていますヨ!昨年は、県民総体シニア大会で県ベスト8に輝くこともできました。

練習は週2回、水曜日は日高の巾着田で日高の人達と、土曜日は飯能で「走って・投げて・打って」多くの仲間と技術を磨きながら汗を流しています。その成果なのか?風呂上りに「タニタの体重計」に乗る。「足腰年齢69歳」。更にびつくり!思わずガッツポーズが!

「体内年齢61歳…!」

先輩・後輩

100周年記念誌を機に



9回卒
山本 一枝
(青梅市在住)

飯高の前身、飯能実科高等女学校に在籍した母の写真を見つけた。母は、幼少に流行した伝染病の後遺症で出産の折りに心臓病を患い43歳の若さで亡くなりました。ちょうど私が、高校生活の真つ只中の事でした。多くの皆さんのように、勉強や部活動にと夢を燃やせず、授業中、母が倒れたとの知らせを受け、迎えのバイクの後席に乗り、おじさんの腰にしがみつきながらの恐ろしい帰宅の時間。その後、学校の階段や廊下の急ぐ足音には、授業は上の空。不安がいっぱいでした。卒業後の級友との楽しかった学校生活の会話は、ちよっぴり寂しいものでしたが、自分で決めた休学。ヤングケアラーに専念することになりました。2年生後半、皆さんのおかげで復学出来、級友と卒業生を送る会の演劇「鶴の恩がえし」や、3年生では校内バザーも成功。高校生活を満喫することが出来ました。卒業後は、父と同じ教職を志



卒業後50年 3年2組同窓会
2006年10月22日 とんぼ亭にて

望、その道に。名栗、豊岡、金子、そして瑞穂町には32年も勤務させていただき、つつがなく40年間で去ることが出来、感謝しております。今では、ありがたいことに教え子達や保護者の皆様とも再開。気がねなく仲間として、年を忘れての会食や旅行にお誘いを受け、楽しませていただいたり、助けていただく85歳です。趣味としては、絵画制作・ダンス・80歳の手習いで始めたカラオケ等の仲間達にも恵まれ、刺激もさまざま。忙しいすぎるほどの楽しい時間ではない。同級生には「いつなら会えるの?」と苦情をいただきます。きつと亡き母が、「私の分まで楽しんで生きなさい。」と言ってくれていると感じております。よき理解者の夫も、俳句・スキー・テニスと、教え子達や地域の仲間と楽しんでます。老人二人の私達に、心配してくれる妹や離れている家族には、私達は、ラインを交信しながら安心してもらっているのです。

ホッケー・楽しみ・望み



19回卒
関口 幸吉
(日高市在住)

国体出場6回、内3位1回、実業団大会、社会人大会優勝、アメリカ、オランダ、ドイツ、マレーシア、香港の国際大会に出場、本当に楽しい経験をさせて頂いた。それも飯能高校でホッケーと出会えたお陰である。運動は野球しか知らなかった私は、特技といえるものが欲しいと常々考えていた。そこに、2年後の40年、国体を目指したホッケー競技の募集があった。何も知らず、ただ仲間と運動できることが楽しそうだった。

グラウンドはなく、天覧山下の野球場から始まり、国体会場第一中学校グラウンドへと移った。ボールの止め方はコースにスティックを立てるのだと教わり、ただ立てて待っているとボールはイレギュラーし指に当たった。大きな血豆や指の皮を剥ぐけがを何度もした。止める時ボールの弾みに合わせることを知らなかったのだ。それでも日曜日は飯能市役所、飯能教職員クラブの人たちとの練習試合で、徐々にボールを扱えるようになって行った。指導者は佐野秀三郎先生、松坂清先生、外部からは東大、法政大、立教大のOBの人がたく

さん来てくれた。

それでも、国体というものがどんな大会なのか知らずに、ただ個人技を上げることだけを考へ練習をした。高校3年の時、国体予選の決勝まで進んだが国体という自覚がなく惜敗したことが後になって悔やまれた。

関東高校リーグ戦で、成城高校、早稲田実業、法政二校、立野高校、横浜商高との交流は楽しい思い出。

当時の国体の会場は天然芝、ボールのイレギュラーは少なくスティックは削れない、宿舍からグラウンドはバスの送迎。そんな優遇された大会の楽しさを知り、絶えず国体を目指し、負けた悔しさをバネに練習を励んだことを思い出す。

現役を離れた後は指導者の資格を取り、飯能高校と聖望学園で私の楽しかった体験を味わって欲しいと技術指導をしたが、生徒達はコーチを敵と考えてしまうようだった。飯能高校で1度だけ関東大会まで進んだのが最高成績だった。少し手を伸ばせば日本全国いや世界を回れるのと思っているのだが、気づかせるのは難しい。飯能から世界を相手に戦う選手が出てくることをいつも望んでいる。

退職して十数年が経ち、毎日の生活で如何に体を、頭を使うか考えて過ごしている所へ、中里副会長から原稿の依頼、頭を使う機会を提供していただき、とても感謝している、と共に来る者は拒まずの気持ちでこれか

らも進みたい。

人生は思い出作り



24回卒
坂下 均
(毛呂山町在住)

私はこの秋70歳になります。定年を迎えて早10年、あつという間に時間が過ぎ去り、人生はつくづく短いものと感じています。私が人生を歩んできた中で、いろいろな人との出会いや別れがありました。その中で一番尊敬するOさんは「人生は思い出作り」と口癖のように言っていました。Oさんは惜しくも69歳で他界されましたが、ゴルフやソフトボールをし、酒もよく飲みました。しかしながら、それ以上に仕事を一生懸命頑張ってきた人だと思えます。これからの人生、夫婦一緒に思い出作りに歩むことと想っている矢先の死、尊敬するがゆえに非常に残念で悔しくてなりません。私の人生、順風満帆とは言えず悪性皮膚がん、甲状腺の手術と2回の大病を患ってきました。又、年を重ねる毎に体力が衰え、昔のような勢いがなくなり、自分では若いつもりでも、傍から見ると年寄りと見られていると思います。私の一番の趣味は旅で、中学生頃から電車であちこちに行ったことが原点で、それから約50年後(令和元年)47都道府県に足を踏み入れました。

それでは私の思い出に残る旅について少し語りたいたいと思います。わたしが一番多く旅をしたのは北海道で、おそらく10回以上は訪れていると思います。

最初に北海道に行ったのはJALのスキーパックで、45年位前の話です。仲間8人と千歳空港に降り立ち、そのままバスでスキー場に向かい、あこがれのスキー場に到着しました。夢中で滑っているうちにお昼になり、お腹がすいたので何か食べようとロッジに入りました。せっかく北海道に来たのだからラーメンを食べようと、食券を買ってカウンターで注文しました。奥に厨房があり、そこには麵を温める籠が回転するような自動的のラーメンの器に入っていくその光景を見たときは非常に驚きました。あの当時田舎者の私としては、このようなオートメーションの麵茹で機があるのを見たことが無かったので、さすがラーメンの本場と感動で驚くばかりでした。

最近、火野正平さんが、投稿者の思い出の場所を自転車で訪れる『にほん縦断こころ旅』という番組を楽しみに見えています。その番組を見てみると私の旅心があらずき、ここに行つてみたい、この景色を見てみたいと心底思つてしまっています。

結びに、人間は様々な人生を歩んでいます。それぞれ違いがあり、考え方も違います。人生

は一度限りです。決して悔いのない人生を皆さんに送っていただきたいと思えます。

100分の3 されど



29回卒
野村香代子
(入間市在住)

昨年の秋、ヘリテージで行われた創立100周年記念祝賀会に、夫と共に出席した。その会場で、部活動の顧問としてお世話になった佐野先生や、指導してくださった先輩方にお会いすることができた。懐かしい方々にお会いしたことで、私が飯能高校に入学してからの日々の記憶が蘇ってきた。

私が飯能高校に入学したきっかけは、中学3年時の担任で、飯能高校の卒業生だった吉田先生のお話を聞かせていただいたことだった。吉田先生は、折に触れて私に飯能高校の思い出を語ってくださった。その話を聞いて、私は飯能高校に進学することを決めた。

入学してから、私は卓球部に入部した。当時の卓球部は、全国大会出場を目指して、朝も夜も厳しい練習を重ねており、盆と正月以外毎日、卓球の練習に明け暮れていた。合宿では、体育館の窓を閉め切り暗幕を張って練習するので、ユニフォームが汗を吸い込んで重くなり、何度も何度も練習着を着替える必

要があった。合宿が終わると、体重が5キロ減っていた。そのような辛い練習の中、コーチやOBの先輩が叱咤激励してくださり、女子の上級生が優しく声をかけてくださったりしてくれたお陰で、3年間部活動をやり遂げることができた。共に汗を流した男子部員は、日頃の鍛錬が実り、インターハイに出場することができた。インターハイ出場を決めた瞬間に、涙を流して喜び合ったことは、今でも忘れられない記憶である。部活動を通して手に入れた体力と気力は、今なお私の人生の基盤となり、私を支えてくれている。

卒業後、教職の道に進んだ。右も左もわからぬ初任者の時に、私のことを学年主任として導いてくださったのが、飯能高校の大先輩である市川先生だった。私は市川先生に、教師として、そして、人としての在り方を教わった。先生に声をかけていただし、月に一度飯能高校で行われる、社会科学の教師が集まる学習会に参加させていただいた。そこで研修を重ね「子ども達にとってためになる授業」ができる教師になろうと努力した。そして、35年間の教師人生を過ごすことができた。

退職してからは、卓球部だった夫と一緒に、高校時代の友人や先輩と会うことがある。当時のことを昨日のことのように語り合っている。

飯能高校に在学していた時間は、創立100年の歴史の中の

たった3年間だけである。しかし、その3年間は、私の人生に大きな影響を与えてくれた。そして、私の人生の岐路には、いつも飯能高校と縁のある方がいて、私のことを導いてくださった。私にとつて、飯能高校はなくてはならないものだった。

末筆になりますが、この原稿を書くにあたって、私のこれまでの人生を振り返る機会を与えていただいたことに感謝しております。そして、飯能高校と、松楓に関わる全ての方のご健勝、ご多幸をお祈り申し上げます

つながりと奇跡



34回卒
佐野 勇
(飯能市在住)

昭和54年度に入学した私は、その前年に飯能高等学校へ進学をすることを決めた。その理由は、偏差値はともかく、友達が受験すること、一番近い高校であることである。受験を終え、後日試験内容を自己採点した結果、5教科中、数学の点数が非常に低く、蒼ざめた。そのほか3教科は中の上から中、しかし一番苦手だった英語が何度見直してもほぼ正解?!、無事合格できたことは奇跡なのかも知れない。

これが私と飯能高等学校のつながりと奇跡の第一歩であった。高校生活はごく普通に過ごし

たと思うが、卒業へのカウントダウンが始まり、多くの友達とは進路が決まりつつある中、私は大学への進学をなから諦めかけていた。しかし色々とお世話になっていた山中先生に相談したところ、2次募集がある大学を受験することになった。

3月の上旬に合格通知が届いたその日だったと思うが、担任の小高先生から「佐野!これからどうするんだ。学校に来い!」と電話での呼び出し。職員室で緊張しながら小さな声で「先生、大学受かりました」と報告したこと覚えてる。

高校生活、最後の最後で大きなドタバタ劇があったが、進学先も決まり、昭和56年度に無事卒業することができたことも奇跡なのかも知れない。

大学卒業後、少し遠回りをし飯能市役所に入庁、市役所には大勢の飯能高等学校の先輩が勤務していた。頼もしい先輩ばかりだった。そんな私も今年度で60歳、大きな病気もせず無事に勤めが終えられそうである。これも奇跡なのかも知れない。

私には子どもが4人いる。その内3人の娘が先輩となった関係で、PTA活動に参加することになった。約10年間の活動中、PTA会長を2回も経験した。

大変だったが、大勢の仲間と汗を流しながら学校の事業をサポートしたことなど、沢山の良い思い出がある。この時は高校時代より真面目に学校に足を運

んだ気がする。このように再び飯能高等学校と深いつながりができたことも奇跡なのかも知れない。

実は、現在も飯能高等学校とはつながりがある。ホッケー部が全力で試合に臨むために設立した「飯能高等学校ホッケー部後援会」の会長を仰せつかっている。初代会長である大先輩の加藤由貴夫さん、2代目会長梨木幹雄さん、3代目会長北島学さんと3代にわたり大事につないできたホッケー部後援会である。

このつながりを大事にすべく、初代会長の加藤さんと、できる限り試合会場まで足を運び、飯能高等学校を応援している。更に、飯能高等学校同窓会の役員として、あまり力になっていないがお世話になってる。

この歳になっても飯能高等学校とつながりがあることも奇跡なのかも知れない。これからの色々なつながりを大事にし、たくさん奇跡が起こることを願っている。



後援会で作成したホッケー部の横断幕

のびのびと育んだ3年間



39回卒
中山 久喜
(飯能市在住)

そこに自由はあった。大人たちには理解があり、私たちは伸び伸びと高校生活を楽しんだ。私の飯高に通った3年間はとても充実していました。

それは昼食時、購買のパンと学食は常に混むので、ちょこちょこ外食に行きました。学校の近所にあった壁の白い洋食屋(名前は忘れた)のチキンライス(現在も忘れられない味だ。店のおばちゃん「高校生がこの時間によく来られるなあ」と思っただけです。でも優しく接してくれました。

それは放課後、「満月」「日活」「大同」にちょこちょこ行った。そこで飯南の生活指導の先生とは顔見知りになった。「うちの生徒見なかったか?」「さっきまでいましたよ。」が、いつもの会話だった。飯高の生活指導は体育科の先生だ。全く見回りに現れなかった。自分たちが知らなかっただけで、遠くから見守ってくれたのかもしれない。店員のおじさんも高校生とわかってたはずだ。こちらの目もあたたかかった。

それは昼休み、時間のある時は流行っていた麻雀をしていた。ある時は、教育実習に来ていた

体育科の先生と一緒に楽しんでいたのを覚えている。そうそう体育科の先生には本当にお世話になった。次にそれを紹介しよう。

それは体育教官室から外へ出て、「山中、内かつ、ガッツ」この3名とよくゴルフをやったものだ。生徒達がサッカーやソフボールをやっている時に、グラウンドに向けて普通に打ちっ放しをしていました。この3名のゴルフの師匠は私だ。ゴルフ好きの父親の影響で私はゴルフ大好きに。先生は、私に「中山——ドライバーの打ち方教える——」とよく言われてたのをなつかしく思い出す。球拾いに行くのは一番下手な先生の役目だった。「山中、内かつ、ガッツ」は体育科の「山中先生、内川先生、平沼先生」の愛称です。あの頃は親しみを込めてあだ名で呼んでいました。この内2名は、現在は亡くなりましたと聞きまし

た。きつと今頃天国でゴルフを楽しんでるんじゃないのかな。また、体育祭や文化祭毎に打ち上げやって、みんなでお酒飲んでワイワイ騒いで盛り上がりたものだ。それも、見て見ぬふりをしてくれた大人がいたからだろう。今回は残念ながらここまでの思い出が詳しく紹介ができません。まとめに、私の高校生活楽しい思い出があります。人たちに見守られたおかげで。ありがとうございます。

ありがとうございます。

心躍るものを大切に



44回卒
柏木 宏泰
(飯能市在住)

飯能市名栗にある温泉旅館「大松閣」の代表取締役社長をしております。飯能高校に在籍していたのは、もう34年も前のことです。

飯能高校に進学してまず印象に残っているのは、「世界が広がった！」という衝撃です。私が入っている名栗地域は人口が少ないもので、幼稚園から中学校まで、同級生がみんな一緒。ほぼ同じ顔ぶれで9年間の学校生活を送るのです。しかし飯能高校には、あちこちの中学校から生徒が入学するわけですから、同級生は一気に増えて（7クラスはあったように記憶していません）、新しい人間関係が始まりました。嬉しいような不安なような…いざいざにしろ、高校生活はスタートから刺激的なものでした。新しい友人の感性や個性をととても新鮮に感じたのを覚えています。

にも興味を持ち始め、「短ラン」「ボクタン」などにも手を出しました。思い返してみると、「もっと勉強しておけばよかった」と悔やむ気持ちも少しあります（笑）。

ところで、この「松楓」は卒業したばかりの生徒さんにも配布されるとのこと。希望に溢れて母校を巣立ったばかりの後輩たちに、この場を借りて応援のメッセージを贈られればと思います。

「あなたがワクワクするものを大切に」。

飯能高校での日々を振り返ってみると、私自身の根っこ、つまり自分らしさのようなものは、すでに作られていたように感じます。部活動に真面目に取り組んだこと、センスを磨いたこと：ワクワクしながら打ち込んだものが、今も私の強みです。あなたの過ごした3年間にもワクワクするものがあつたはず。それは、社会に出た後もきつとあなたを助けてくれます。そしていつかは、見知らぬ誰かに手を差し伸べられる人間へと成長してもらえれば嬉しいですね。

もし疲れた時は、ぜひ大松閣をお訪ねください。あなたが青春を過ごした飯能で、地域みんなでお待ちしています。



在校生の皆様へ

49回卒 中村 俊寛
(入間市在住)

私は、飯能高校を卒業してから25年が経ちました。

振り返ると、野球部員として熱い3年間を仲間とともに過ごした時間をつい昨日のこのように思い出します。練習の厳しさ、試合の緊張感、共に戦った仲間たちとの絆。それら全てが私の青春時代を彩り、今を生きる自分を支えてくれていたのだと気づかされます。

在校生の皆様は意識しないかもしれませんが、春の真ただ中でありますので、失敗を恐れず、思い切り挑戦する勇氣を持ち、勉強、部活、恋愛にしても夢を実現するために努力を惜しまず、失敗を恐れず、自分を信じてチャレンジして欲しいと思います。

また、目標を共有し切磋琢磨する仲間との絆を大切にしたい、支え合いながら進んでいけば、自分では想像もつかないような大きな壁も乗り越えられるはず。高校時代の仲間たちと過ごした時間は、一生の宝となり。相手を認め合い、時にはぶつかり合いながらも絆を深め、仲間たちと共に目標に向かって進んでいくプロセスを大切にしたいと思えます。

挫折や失敗に直面したときには、諦めずに立ち上がる強さと自分を信じる気持ちを持つてください。人生には様々な試練がありますが、それらを一つひとつ乗り越えることで新しい自分に出会うことができると思います。自分を信じ、自分にうそをつかず、時には休憩をはさみながらまっすぐに組み組み続けてください。

高校生活を過ごしている今の時点では、なかなか気づくことができないかもしれませんが、今まさに皆様が経験していることは、今後の人生にとって大変重要な土台となります。それは、大学へ至ったとき、又は社会に出たとき、経験したことのないピンチが訪れたときに自らを支えてくれるはず。将来の自分が、飯能高校で過ごした自分を誇りに思う。そんな未来が皆様に訪れることを心から願っています。

人生のターニングポイント



54回卒
丸山浩志郎
(練馬区在住)

高校を卒業して22年くらい経つでしょうか。この機会をいただいて、改めて高校時代を思い出してみたい。ん、全然思い出せない。楽しかったような気はするけれど、正直なところ具体的に何が楽しかったか書くこ

とが見つかりませんでした。唯一覚えているような気がするのが、生徒会長が「やるっきゃないっしょ！」みたいなスローガンを掲げていたことくらいですかね。なぜかその事だけは印象に残っています。

僕にとっては、高校生活よりも卒業してからのの方が濃い時間を過ごせたんだと思います。

高校卒業後、僕はドイツにサッカー留学し、2年間過ごしました。留学中に膝に違和感があったので帰国後、精密検査を半月板の手術をしました。手術後、リハビリを兼ねて中学校のサッカー部の外部指導員として働き、膝の調子も良くなった頃、紹介してもらいJリーグのチームの練習に参加させてもらいました。やれない事もないかなあとも思ってたけれどプロでやることは自分で決めることではなかった。そこでプロサッカー選手になることは諦めることにしました。

それまでプロサッカー選手になるのが夢というか、そうなることしかないと思っていたけれど、それがなくなり何をしたら良いのか？今から何が出来るのか？何がしたいのか？などを考えながら、無気力な生活をしていたのを覚えています。

その後、なんだかんだでデザイン専門学校に通い、昔からスニーカーが好きだったのでデザインナー募集していたスニーカーショップに就職。デザインナーと言いつつも、デザインというよ

りオンラインショップの運営業務全般をこなす日々が長く続きましたが、ここ数年は靴をデザインしたり、アパレル、グッズを作ったりすることをメインに働かせてもらうようになりました。

サッカーがなくなり、どうしていいかわからなかった時、留学していた時に仲良くなった友人に会う機会がありました。「まだなんだってできるし、とりあえずやってみたら！サッカー頑張ったんだからなんだってできるでしょ！」とテキトーな感じの助言ではあったけれど、辛かった練習とかに比べれば、他のことは楽な気がしたし、大きな挫折を経験したことで、これ以上嫌なこともうないな！とその時、思ったことが良かった気がします。

実際にはサッカーをやっていた時よりも今の仕事の方が辛気がするけれど、できるところまで思い切りやって、失敗したらまた何かに挑戦しようという精神で精一杯やっていたと思うっています。失敗のない人生は面白くない、「やるっきゃないっしょ！」といった感じでしょう。

先生の言葉



59 回卒
橋本 絢人
(瑞穂町在住)

高校時代の3年間といいますが、授業、部活動、友人と過ごした時間などが懐かしく思い出されます。当時住んでいた飯能市原市場地区から、雨の日も風の日も自転車通勤していたことも、今となってはいい思い出となっています。

そのような学校生活の中で、特に記憶に残っているのは当時の学年主任の先生の一言です。高校3年生になり、特にやりたいことも無かった私は、進路が決まらないまま夏休みを過ごしてしまい、焦りを感じていました。そのことを学年主任の先生に相談させていただいたところ、「高校生で将来やりたいことを見つけることは本当はとても難しい。しっかりと考える時間も必要だから、親に頼んで4年間暇を買ってもらいなさい。」と大学に進学するようにアドバイスをいただきました。私自身、将来やりたい仕事も決まらないまま費用のかかる大学に進学することに躊躇していた部分もあり、その言葉が後押しになりました。親と相談して大学に進学することに決めました。また、併せて「大学4年間はあつという間に過ぎてしまうから、1年

生のうちから進路について考えておいた方がよい。」と釘を刺されたこともあり、大学進学後は早いうちから進路の検討を行い、何とか今の仕事に就くことができました。

進学先が決まっても奨学金の紹介や各種手続の補助など大変お世話になりました。今思えば何かと手のかかる生徒だったと思いますが、嫌な顔一つせずにお付き合いいただきました。お世話になった先生方には心から感謝しております。

最後になりますが、今回原稿依頼をいただいたことは高校時代を思い返す良い機会となりました。原稿依頼をいただきましてことに感謝いたしますとともに、飯能高校の更なるご発展を心からお祈り申し上げます。

私の青春時代



64 回卒
本橋 実奈
(横浜市在住)

高校を卒業してからあつという間に11年も経ちました。今思い返すと楽しかった記憶ばかりが今も目に浮かびます。

私にとって高校の3年間はまさに「ホッケー一色」でした。中学から始めたホッケーを続ける為にホッケー部のある飯能高校に入学しました。練習はほぼ毎日あり、家族という時間よりも勉強する時間よりもホッケー

漬けの毎日でした。全国大会で結果を残すことを目標に鯨井先生のご指導のもと、練習は厳しく大変でしたが仲間がいたので頑張れました。特に最後の1年間は濃く、先生や先輩の推薦で部長を任せてもらいました。正直、私は周りを引っ張るタイプではないので責任感とプレッシャーで色々悩みました。楽しかった試合も部長になったことで不安になる事が多くなっていました。私が考えすぎていただけでむしろみんなが部長の私を支えてくれていました。結果はインターハイでベスト8を取ることができ、個人ではインターハイ優秀選手に選ばれることが出来ました。今までの試合の中で一番嬉しかったです。良い経験をさせて下さった先生、コーチ、仲間にはとても感謝しています。その後、大学でもホッケーを続けて10年の節目で引退しました。

現在には新卒の時から入社している都内の人材関係の会社に勤め、研修講師や社員の相談を行っています。部活動で培ったコミュニケーションや最後まで諦めずにやり切ることを大事にして仕事をしています。高校での日々があったからこそ今の自分があります。これからも人の役に立つ仕事に携わっていきたいです。

飯能高校の皆さんには、今この瞬間を大事にして何かに一生懸命打ち込んで欲しいです。今はただただ大変に感じることも、ただただ大変に感じることも、社会人になった時に「あの時は楽しかったな」と思える時が絶対に来ます。その時の為に前向きにチャレンジをしてみてください。

最後になりますが、飯能高校関係者の皆様のご健勝と益々のご発展を心より祈念しております。

飯能高校を卒業して

69 回卒
松田 直樹
(日高市在住)

私は2017年に飯能高校を卒業し、指定校推薦で、東京理科大学に進学しました。その後、一般受験を経て埼玉大学大学院に進学し、2023年に修士課程を修了しました。現在は埼玉県内の公立高校で教員として働いています。そのような中で、今回の寄稿のお話をいただきました



併せて「大学4年間はあつという間に過ぎてしまうから、1年



国体関東予選 (神奈川)

した。何を書いていいか、いま
いち固まらないので、思ったこ
とをつらつらと書いていこうと
思います。

私は現在、教員をしています
が、元来勉強が全く好きではあ
りません。むしろ嫌いなくらい
です。なので当時、偏差値がそ
こまで高くなかった飯能高校に
入学しました。入学したあと私
は「高校を卒業したら働こう」
と書いていました。しかし、た
またま数学のテストで良い点が
取れたことをきっかけに、数学
だけは勉強して、大嫌いだっ
たものが好きになりました。高校
の先生方にもご指導いただき、
たまたま運よく、理科大の指定
校枠で進学することができまし
た。私が今思うことは、チャン
スは無駄にしてはいけないとい
うことと、物事は続けられればそれ
なりになるということ。ど
ちらも当たり前のことのように
ですが、実際に自分が経験するこ
とにより、一層強く実感します。
今になって思えば、よく進学校
でもない学校からここまでやれ
たなと思います。ましてや、大
嫌いだっただけで学位をとり、
数学の教員になるなんて思っ
ていませんでした。

当時のことを思い出しながらも、
新しい飯能高校を發展させてい
きたいと思います。

思い出



74回卒
木村 快地
(所沢市在住)

私の高校生活は、考えさせら
れることが多い3年間だったと
思います。私は勉強が得意では
なく夢も特別ありませんでした。
テスト勉強も熱心に取り組むこ
とはなく単位を落とさない程度
に勉強し、日々の授業もなんと
なく受けていました。あつとい
う間に一年が過ぎていった頃、
世界で大流行した新型コロナウ
イルスの陰が忍びよってしまし
た。大したことはないだろうと
楽観視していましたが日本もじ
わじわ流行が始まり学校生活に
も影響が出てくる事態になりま
した。学校も登校することが難
しくなり、部活、文化祭、修学
旅行なども中止になってしま
いました。新しいクラスメイトと
も中々会えない日々でした。
すぐに流行も終息すると思っ
ていたのですが、思った以上に
長期戦を強いられることになり
ました。コロナ流行前、普通に
生活できていたこと自体奇跡な
ことなのだと感じました。
コロナも少し落ち着いてきた
頃、クラスメイトとの関わりも
増えて来ました。コロナの制限

はある中、友達もたくさん遊
びました。とてもいい思い出で
す。卒業した今でもよく遊んで
います。

高3になり、進路を考える時
期になりました。すっかり勉強
してこなかった私は、自分が希
望していた指定校の評定に届き
ませんでした。中学時代から高
校時代の行動を後悔しました。
楽するために楽をするのではな
く、楽するためには、楽するた
めの努力が必要だということに
気が付いたので。今までの失
敗を取り返し、人生を変えるた
め大学受験することを決意しま
した。8月からという遅いスタ
ートでしたが出来る限りのこと
をしました。辛い日々が続いま
したが、ここで諦めてしまっ
たら、今までの自分が逆戻りし
てしまうと自分に言い聞かせな
がら勉強しました。現役時の結果
は、全ての大学不合格という形
で終わってしまいました。
浪人生活が始まり、毎日自宅
に引きこもり勉強をしています。
友人や家族の支えもあり、
なんとか浪人生活を終えること
が出来ました。結果は、志望し
ていた大学に合格することが出
来ました。達成感と開放感を同
時に味わいました。私は受験を
通して、失敗から学ぶことが一
番大切だと思いました。
色々あった高校生活でしたが、
良い友達にも出会えて楽しかつ
たです。支えてくれた友人家族
を大切に人生を楽しんでいき
たいです。

四年間の思い出



定分16回卒
関根 嘉之
(越生町在住)

越生駅前の商店街を急ぎ足で
進む若者たち、15分程でたどり
着く先に木造二階建の県立飯能
高校越生分校が待ち構えている。
戦後稚蚕飼育場として使用
1953年に夜学として、17
年間で約540人の卒業生を
送り出した建物である。
私達が入学した1962年
は1年生から4年生まで70名以
上の生徒が在籍していました。
越生小学校グラウンドの暗い照
明で体育の授業を実施、部活も
楽しく、担当する先生は皆さん
20代後半で若くて、まるで兄貴
のようで、いろんな事を相談し
て力になってくださいました。
会社を休んでも夜学は休まず登
校して皆から励まされて元気に
なり、陸上部にいた友は夜道を
鎌北湖まで往復していました。
私が入っていた理科研究部は毎
年校外学習を実施していて、楽
しかったのは長野県の野尻湖で、
キャンプをしてナウマンゾウの
痕跡をたどり学んだ事が思い出
として残っています。
私達のクラスは入学時35名程
度で、途中本校に数名が転校、
職場の都合により休学など色々
あって、卒業出来た友は23名で
した。

楽しい思い出は京都、奈良、
淡路島に泊まり四国に行った修
学旅行です。

今思えば、皆が何日も会社を
休んで参加出来た事が驚きです。
洲本温泉のホテルから夜の城跡
公園の散策、四国へ渡り栗林公
園を見て高松港から船で、夜行
列車も帰りに乗った新幹線も初
体験の旅でした。
大学に2名、会社を起こして
社長になったのが4人と卒業後
の進路は様々ですが基本になっ
たのが4年間、夜学で皆と活動
した生徒会、3時間のミニ体育
祭、文化祭など私達に出来る事
を実施したこと。そして一
番の喜びはクラスのイケメン男
子4人が下級生を伴侶として、
それぞれ素晴らしい家庭を築い
た事です。
57年の歳月が過ぎて、気が付
けば7人も夜空の星となり旅立
ちました。同級生で立ち上げた
23の会(ふみの会)は4年ごと
に、お世話になった先生方を招
いて越生町の店で、今も楽しく
行っています。会を重ねるごと
に、減ってきた友達を思い出す
と皆自然と涙ぐみ、健康が一番
と話しています。下が75歳上
が、82歳と、皆、年をとりまし
たが、私達が今あるのは、この地に越
生分校が存在したからです。
あらためて育てて頂き、あり
がとうございます。心よりお礼
申し上げます。

顔写真につきましては、ない方
もいらっしやいます。

記念事業

えた飯能高校



飯能高等学校

「矢島得充校長先生」

の式辞

奥武蔵の山々が彩り鮮やかな季節となりました。

本日、ここに埼玉県知事大野元裕様、県議会議員内沼博史様、県教育委員会教育長高田直芳様、飯能市長新井重治様をはじめ、多くの御来賓の御臨席を賜り、埼玉県立飯能高等学校創立100周年記念式典を挙行できますことは、本校職員・生徒にとりまして、誠に光栄であり、この上ない喜びでございます。

本校は、大正11年飯能町外九ヶ村学校組合立飯能実科高等学校として創立し、星霜を重ね、100周年という大きな節目を迎えました。本日、ここに創立100周年記念式典を挙行できますのも、偏に、埼玉県教育委員会をはじめ、保護者、同窓会、歴代校長並びに教職員、地域の皆様の多大な御支援と御尽力の賜物と厚く御礼申し上げます。

本校の沿革を顧みますと、大正11年4月14日、飯能地域の熱い要望により、また、女子教育の充実・発展のため、飯能町外九ヶ村学校組合立飯能実科高等女学校として誕生しました。そ

の後、昭和5年に県立に移管し、埼玉県立飯能高等女学校、昭和23年に埼玉県立飯能女子高等学校と校名の改称を重ねながら、飯能地域の女子教育を担い、才媛を多数、世に輩出したしました。そして、この間、定時制課程を併設し、昭和24年に共学の埼玉県立飯能高等学校として歴史を刻み、現在に至っています。これまでの間、本校は、西部地区の伝統校として地域の皆様からの厚い信頼と期待をもとに発展して参りました。卒業生は、2万5千人を超え、政治・経済・行政等幅広い分野で地元飯能市はもとより、全国で活躍されています。文武両道の伝統校として、輝かしい時代を築き、発展を重ねてきました。一時期発展が停滞し、地域の期待に十分応えきれない時代もありましたが、これまでの歩みを振り返り、目指す学校像として、「地域に根ざし、高い志を持ち、社会に貢献できる生徒を育む学校」を掲げ、学力の向上と部活動の充実に向けて取り組んで参りました。現在、進路希望の実現という目に見える成果が現れ、地域から益々の発展を期待されています。

令和5年、魅力ある県立高校づくり第1期実施方で、飯能南高校と統合し、進学を重視し



令和4年10月29日 埼玉県立飯能高等学校創立100周年記念式典



生徒代表のことは：長濱生徒会長

100周年 100周年を迎

た地域と協働する学校として新たな歩みを始めます。単位制の導入により科目の選択幅を拡大し、多様で教科横断的な科目を設置した教育課程を編成し、探究的な学びを取り入れ、これからの新しい時代に求められる資質・能力を育む教育を実践していきます。

この創立100周年の節目と新校開校を新たな出発点として、5年後、10年後の飯能高校の確固たる姿を描き、社会に貢献できる人材を育成し、地域から信頼され期待され続ける高校となるべく、これまでの教育と先進的な教育を最適に融合しながら、教職員が一丸となって取り組んで参る所存です。さて、21世紀は「自立と共生の時代」と言われ、一人一人が自分らしく自立するとともに、多様な文化や価値観を互いに認め合いながら、共に生きていくことが求められています。また、技術の目覚ましい進歩により、社会が変化するスピードはますます速まり、真の意味で人間の在り方が問われる時代です。つまり、これからは、人間の感性、創造性、価値観がなお一層必要とされる時代となるのです。

能高校が時代の変化に合わせてしなやかに変化してきたように、これからの変化の激しい困難な時代を飯能高校で学び、培った力を発揮し、生涯学びながら、しなやかに強く生きてほしいと願います。また、優しい思いやりを忘れず、周りの人と良好なコミュニケーションを取り、豊かで幸せな人生を送るとともに、飯能高校で培った人間力を発揮し、豊かで幸せな社会づくりに貢献することを期待しています。結びに、これまでの本校の発展のために御尽力をいただきました埼玉県教育委員会をはじめ、保護者の皆様、地域の皆様、卒業生、歴代校長並びに教職員の方々に感謝の意を表しますとと御支援を賜りますようお願い申し上げます。また、本日の記念式典並びに多くの記念事業を推進してくださいました創立100周年記念事業実行委員会の皆様をはじめ、関係者の皆様からの御高配に感謝と御礼を申し上げます、式辞といたします。

令和4年10月29日

埼玉県立飯能高等学校

第28代校長 矢島 得充

創立100周年記念式典 「生徒代表のことは」

皆さん、こんにちは。生徒会長の長濱未織です。今年度、創立100周年を迎えて、新校に生まれ変わる節目に、生徒会長を務めさせていただいております。多くの先輩方が築き上げてきた100年という歴史の重さ

と責任を感じております。飯能高校では「地域に根ざし、高い志を持ち、社会に貢献できる生徒」をはぐくむことを目標としています。そのため、総合的な探究の時間に、飯能市の歴史や地域に貢献できる活動を活発に行っています。また、進路について1年生の時からLHR等で自分と向き合う時間があるので、高い志を持つことができ、さらに進路実現に向けて就職・進学とともに、地域の企業や学校の方々に模擬面接をしていただける機会があります。本番と同じような緊張感で面接を受けられるのはとても貴重です。また、英語検定全員受験など、勉強のモチベーションを上げられる取組も本校の魅力だと感じています。

皆さん、こんにちは。生徒会長の長濱未織です。今年度、創立100周年を迎えて、新校に生まれ変わる節目に、生徒会長を務めさせていただいております。多くの先輩方が築き上げてきた100年という歴史の重さ

と責任を感じております。飯能高校では「地域に根ざし、高い志を持ち、社会に貢献できる生徒」をはぐくむことを目標としています。そのため、総合的な探究の時間に、飯能市の歴史や地域に貢献できる活動を活発に行っています。また、進路について1年生の時からLHR等で自分と向き合う時間があるので、高い志を持つことができ、さらに進路実現に向けて就職・進学とともに、地域の企業や学校の方々に模擬面接をしていただける機会があります。本番と同じような緊張感で面接を受けられるのはとても貴重です。また、英語検定全員受験など、勉強のモチベーションを上げられる取組も本校の魅力だと感じています。

皆さん、こんにちは。生徒会長の長濱未織です。今年度、創立100周年を迎えて、新校に生まれ変わる節目に、生徒会長を務めさせていただいております。多くの先輩方が築き上げてきた100年という歴史の重さ

と責任を感じております。飯能高校では「地域に根ざし、高い志を持ち、社会に貢献できる生徒」をはぐくむことを目標としています。そのため、総合的な探究の時間に、飯能市の歴史や地域に貢献できる活動を活発に行っています。また、進路について1年生の時からLHR等で自分と向き合う時間があるので、高い志を持つことができ、さらに進路実現に向けて就職・進学とともに、地域の企業や学校の方々に模擬面接をしていただける機会があります。本番と同じような緊張感で面接を受けられるのはとても貴重です。また、英語検定全員受験など、勉強のモチベーションを上げられる取組も本校の魅力だと感じています。

令和4年10月29日

生徒会長 長濱 未織

100周年記念事業報告



祝賀会での木川会長の祝辞

「飯能高等学校創立 100周年記念事業を 振り返って」

100周年記念事業実行委員会

会長 木川 一男

今回の母校100周年事業については、同窓会報「松楓」で活動報告をお伝えしていましたが、本年3月に行われた解散式で計画した全ての事業が終了し、実行委員会としての6年に及ぶ活動に幕を閉じました。

この間、役員各位には大変お骨折りをいただくとともに、同窓会の皆様にもご協力をいただきましたこと厚く御礼申し上げます。

記念誌の作成については、高

校で保管されている卒業アルバムを柱に資料収集を行い、時間を要しましたが関係各位の協力により発刊することができました。今後、当校の歴史を振り返る中で、貴重な資料として引き継がれるものと思っています。

記念式典は昨年10月29日に大野埼玉県知事や内沼県議等の出席のもと、学校主催により市民会館で盛大に執り行われました。記念講演は、作家の坪田信貴（つぼたのふたか）氏による講演で、書籍の「学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶應大学に現役合格した話」が映画化され大ヒットとなり、一躍時の人になった方です。在校生の多くは、この記念講演を聞き刺激を受けたのではないかと思います。

記念の植樹は本年2月多くの参加者のもと、飯能と地名された由来の説の一つと言われている「榛の木」と「しだれ桜」を校内に植樹しました。「榛の木」が強く勇ましい、「しだれ桜」は優美を意味していると言われております。未来を担う本校の生徒がこの花言葉の様に成長をしていくことを願っての記念樹です。当校は、1922年（大正11年）に飯能町他周辺の9カ村が学校組合を設立し、飯能実科高等女

学校として開設したのが始まりです。その後埼玉県に移管し、教育制度改革を経て昭和24年に男女共学となり、埼玉県立飯能高等学校として今日に至っています。

100年という歴史を刻む間には国内・国外においても大きな出来事がありました。学校を

設置した翌年に関東大震災が起き、死者行方不明者が10万5千人を超え、住宅被害は37万2千件を超える大惨事となりました。昭和に入ると世界恐慌や満州事変、日中戦争、ヨーロッパでは第二次世界大戦が勃発しました。諸外国との政治や経済分野において難しい状況に置かれた日本



記念講演：坪田信貴氏



祝賀会での矢島校長の祝辞

祝賀会での矢島校長の祝辞

東京オリムピックの開催など、戦時中の記憶が薄れるように経済の繁栄が続く、経済大国として今日に至っています。

当校は、こうした様々な社会状況の中で脈々と歴史を重ね、卒業生は2万5千人を超えています。経済、文化、スポーツなど様々な分野において多くの卒業生が活躍されており、同じ高校の出身とわかると誇らしく感じます。矢島校長から今後の学校方針について、特別進学クラスを設置し、大学進学に力を入れるとともに、時代に即した学校にしていきたいと聞きました。学校も時代とともに変わりますが、今後も多くの人材を育て

は、やむなく昭和16年12月から3年9ヶ月に及ぶ大東亜戦争を起すことになりました。長い日本の歴史の中において、昭和前半は、最も困難な時代だったのではないかと思います。戦争が敗戦で終結し、その爪痕がまだ残る昭和25年、私が高校2年生の時に朝鮮半島において韓国と北朝鮮の間で朝鮮戦争が勃発しました。当時は敗戦の影響で疲弊していた経済状況でしたが、アメリカから大量の軍需物資の注文があり、この特需景気が経済復興の発端になったと言われています。



記念植樹祭：令和5年2月4日

東京オリムピックの開催など、戦時中の記憶が薄れるように経済の繁栄が続く、経済大国として今日に至っています。



祝賀会での落合様の祝辞

祝賀会での落合様の祝辞

私は、大学への進学を考えていましたので、普通科があった飯能高校を受験しました。

私は、入学早々軟式テニスクラブに入部。2年になった時は友人と柔道部を創設し部活に没頭していました。卒業が近くなった時には、友人達と「無花果」という題名の本を出すなど、振り返ると高校生活を謳歌していたようです。

手前味噌になりますが、今日でも歌われている体育歌は、65年前に応援歌として一般募集があり、私が応募した作詞が一位に入選し採用されたもので、現在でも歌われていることを光栄に感じています。

会に送り出していただけることを期待しています。

私は男女共学になった昭和24年4月に入学をしましたので、前年男子の1期生になります。前年まで女子高でしたので、同学年でも3分の2は女子で2年生・3年生はすべて女子で慣れるまで時間がかかったように記憶しています。当時、飯能には農蚕・商業を学ぶ私立の飯能実業高等学校（現在の聖望学園中学校高等学校）がありました。前身は寿多館蚕業学校で、養蚕業は良質な生糸を生み出す貴重な収入源だったことから、飯能周辺では養蚕農家が多く、その後継者を育成するための学校でした。



支援事業費 700 万円の寄付

私は、大学への進学を考えていましたので、普通科があった飯能高校を受験しました。

記念事業を行うについては、資金の確保が大前提となりますが、1,040人の方から1,700万円を超える募金を集めることができました。又、70周年記念事業の残金等もありましたので、合わせて2,630万円を予算化し記念誌の作成費、記念樹の経費、事務費等に充て、700万円は支援事業として学校に寄付をさせていただきました。

事業の成功、不成功は事前の準備で決まると言われます。今回の記念事業については、長期間にわたり実行委員各位が検討・準備をしてきたことで、成功裡に終えることが出来たことを申し上げ結びとします。



写真でつづる 100 周年記念事業



坪田氏への花束贈呈



大野埼玉県知事の祝辞



祝賀会での落合様の祝辞



祝賀会での内沼県議会議員の祝辞



記念植樹祭：令和 5 年 2 月 4 日



祝賀会でのスナップショット

事業報告総括

飯能高等学校創立100周年記念事業実行委員会は、創立100周年記念事業を実施するとともに、飯能高校のさらなる充実発展に寄与するための活動を平成28年度から本格的に開始しました。会議として役員会、定期総会及び専門部会を開催するとともに、各年度の事業については、専門部会を中心に活動してまいりました。

実行委員会では、飯能高校が創立100周年を迎え、その記念事業を行うことを卒業生にお知らせしたいこと、また、実行委員会を運営し、記念事業を実施するための事業資金の確保が必要であることを念頭におき、まずは名簿部会で卒業生名簿の整備に取り組み、総務部会で寄付金募集事業を企画し、卒業生に対し寄付金募集事業への協力をお願いしました。記念誌部会では、飯能高校及び卒業生の協力をいただき、創立100周年記念誌を作成することができました。

令和2年度からは、新型コロナウイルス感染症が流行し、実

行委員会の活動においても影響を受け、とりわけ祝賀会やイベントの計画をたてることは困難な状況ではありましたが、祝賀会・イベント部会が中心となり、

記念事業として令和4年10月29日に創立100周年記念祝賀会を、令和5年2月4日に植樹祭をそれぞれ実施することができました。

記念事業につきましてはこのほか、飯能高校のさらなる発展と学校運営を支援するために700万円を飯能高校に寄付いたしました。

実行委員会の活動にご賛同いただきました多くの卒業生と飯能高校及び関係者の皆様のご支援により、実行委員会を円滑に運営することができ、計画しました各事業が予定どおり実施することができましたことをここに報告いたします。



飯能高等学校創立100周年記念事業実行委員会 収支決算報告書

収入の部 単位：円

科目	本年度予算額	摘要
寄附金	17,545,600	寄附者 1,035 名、5 団体
準備委員会繰越金	688,308	100 周年記念事業準備委員会より
借入金	1,000,000	木川会長より
譲与金	9,000,000	同窓会より
雑収入	129,781	預金利子ほか
合計	28,363,689	

支出の部 単位：円

科目	本年度予算額	摘要
会議費	944,601	総会、役員会会場費、臨時総会費ほか
学校応援事業費	7,000,000	飯能高校へ寄附
寄附募集事業費	3,404,441	寄付募集要項作成費、振込用紙印刷費、郵送料、振込手数料等
名簿作成事業費	4,819,993	名簿作成委託料、名簿管理料等
記念誌作成事業費	3,484,424	印刷製本費、編集アドバイザー料、インタビュー謝礼等
祝賀会開催事業	1,199,921	ヘリテイジ支払い、出席者記念品、郵送料等
イベント開催事業費	381,454	志村造園支払い、消耗品費等
視察事業費	13,391	視察先への手土産
会報誌定期購読交付金	1,027,000	同窓会支払い
返戻金	700,000	同窓会返金
借入金返済費	1,000,000	木川会長へ返済
事務費	1,311,125	会議資料コピー代、通信費、消耗品費、印刷費ほか
雑費	79,370	振込手数料ほか
合計	25,365,720	

収入の部 決算額 28,363,689円
 支出の部 決算額 25,365,720円
 差引 残高 2,997,969円

※残額は、飯能高校同窓会に譲り渡しました。

「創立100周年記念誌」販売のご案内



創立100周年記念誌は、残数限りとなりますが、1冊2,000円にて販売しております。

ご購入をご希望される方は、飯能高等学校同窓会役員へご連絡を頂くか、あるいは下記のメールアドレスまでご連絡下さい。

E-Mail : hankou.dousoukai@gmail.com

尚、お申し込みの際には、必ず、ご住所、お名前、電話番号をご連絡頂けますようお願い致します。

お支払いを振り込みでご希望の場合は、下記まで。

振込方法：郵便振り込み（振込手数料は同窓会負担）

口座番号：00220-5-143004

加入者名：埼玉県立飯能高等学校同窓会

令和5年度 飯能高等学校同窓会定期総会

令和4年度 飯能高等学校同窓会 事業報告

事業月日	事業内容
04・04・08	入学式 <※により会長欠席>
04・04・16	役員会① ・総会について ・会報について
04・05・19	監査会
04・05・28	役員会② ・総会について ・会報について
04・06・04	定期総会に代わる役員会 <※により>
04・06・25	役員会③ ・会報発行委員会(松楓46号編集)
04・07・16	役員会④ ・会報発行委員会(松楓46号編集)
04・08・06	役員会⑤ ・会報発行委員会一校正
04・08・20	役員会⑥ ・会報発行委員会二校正
04・08・27	役員会⑦ ・会報発行委員会 ・松楓46号発送作業
04・09・01	会報「松楓」46号発行
04・11・12	役員会⑧ ・会報について反省
05・01・14	役員会⑨ ・会報について
05・03	第75 回入会式(221名) <※により中止>
05・03・10	卒業式 <※により会長欠席>
05・03・18	役員会⑩ ・総会について ・会報について

※ 新型コロナ拡大防止のため

令和5年度 飯能高等学校同窓会 事業計画

事業月	事業内容
05・04	開校式・入学式
05・04	役員会 ・定期総会資料検討 ・会報発行委員会(松楓47号)
05・05	監査会
05・05	役員会 ・定期総会資料検討 ・会報発行委員会(松楓47号)
05・06	定期総会 役員会 ・会報発行委員会(松楓47号 寄稿文依頼確認作業)
05・07	役員会 ・会報発行委員会(校正作業1)
05・07	役員会 ・会報発行委員会(校正作業2)
05・08	役員会 ・会報発行委員会(発行最終チェック)
05・08	役員会 ・松楓発送準備作業
05・09	会報「松楓」47号発行・発送
05・10	役員会 ・研修会
05・11	役員会
06・01	役員会
06・02	第76回入会式 同窓会役員出席
06・03	卒業式 同窓会会長出席
06・03	役員会 ・事業内容反省会等

令和4年度 飯能高等学校同窓会 収支決算書

(自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日)

科目	予算額	収入済額	比較増減	摘要
会費	1,125,000	1,105,000	△20,000	令和4年度卒業生(221名×5,000)
繰越金	1,964,618	1,964,618	0	前年度から
会報定期購読収入	559,000	747,900	188,900	過去一括分 675,900 令和4年度新規分 72,000
賛助金	10,000	36,000	26,000	4名(鈴木文字様、新堀敬明様、山下進夫様、匿名1名)
雑収入	382	2,997,980	2,997,598	預金利子11 100周年記念事業実行委員会残金 2,997,969
合計	3,659,000	6,851,498	3,192,498	

支出の部

科目	予算額	支出済額	比較増減	摘要
会議費	50,000	27,362	22,638	役員会
会報発行費	800,000	691,681	108,319	松楓46号(9月1日発行)
慶弔費	30,000	0	30,000	
事務費	50,000	21,673	28,327	コピー代 10,180 手数料 11,493
事業費	500,000	250,000	250,000	学校応援事業
研修費	50,000	0	50,000	
保守管理費	130,000	121,000	9,000	サーバー保守料データ管理料
積立金	50,000	50,000	0	学校応援事業等基金積立金
予備費	1,999,000	0	1,999,000	
合計	3,659,000	1,161,716	2,497,284	

収入合計6,851,498円-支出合計1,161,716円=5,689,782円(令和5年度へ繰越し)

【財産目録】 普通預金 5,689,782円
定期預金(学校応援事業等基金) 200,010円

上記のとおり報告いたします。
令和5年6月3日

埼玉県立飯能高等学校同窓会
会長 澤田 清志 ㊞
会計 若林 淳子 ㊞
会計 奥田由記子 ㊞

上記監査の結果 正当と認めます。
令和5年5月16日

埼玉県立飯能高等学校同窓会
監事 原島 稔久 ㊞
監事 鯨井 暢 ㊞
(注: 原本には認印があります。)

令和5年度 飯能高等学校同窓会 予算

(自 令和5年4月1日 至 令和6年3月31日)

科目	本年度	前年度	比較増減	摘要
会費	1,620,000	1,125,000	495,000	令和5年度卒業予定者(324名×5,000)
繰越金	5,689,782	1,964,618	3,725,164	前年度から
会報定期購読収入	30,000	559,000	△529,000	松楓定期購読収入(30名×1,000)
賛助金	10,000	10,000	0	
雑収入	218	382	△164	預金利子等
合計	7,350,000	3,659,000	3,691,000	

支出の部

科目	本年度	前年度	比較増減	摘要
会議費	50,000	50,000	0	役員会
総会費	50,000	0	50,000	
会報発行費	800,000	800,000	0	会報(47号)印刷
慶弔費	30,000	30,000	0	
事務費	50,000	50,000	0	事務用品等
事業費	500,000	500,000	0	学校応援事業等
研修費	50,000	50,000	0	
保守管理費	130,000	130,000	0	サーバー保守料データ管理料
備品費	350,000	0	350,000	同窓会室用机、椅子等
積立金	100,000	50,000	50,000	学校応援事業等基金積立金
予備費	5,240,000	1,999,000	3,241,000	
合計	7,350,000	3,659,000	3,691,000	

【基金残高】 学校応援事業等基金 200,010円

令和5年6月3日

埼玉県立飯能高等学校同窓会
会長 澤田 清志



令和5年度 総会開催

令和5年6月3日(土) 飯能高校と飯能南高校が統合し、新しく開校された飯能高校において、4年ぶりに飯能高校同窓会定期総会が通常開催されました。(25名参加)

飯能高校からは、矢鳥校長先生、山本教頭先生、發智教頭先生、黒沢事務部長の方々にご参加いただきました。

新野副会長の司会進行により澤田会長の挨拶で始まりました。

矢鳥校長先生から進学を重視した地域と協働する新たな飯能高校について紹介がありました。

100周年記念事業木川会長からも新しい飯能高校に期待を寄せるお言葉をいただきました。

澤田会長が議長を務め、令和4年度事業報告及び決算の承認、5年度事業計画及び予算が承認されました。

総会終了後は、開校にともない新しくなった教室等を見学させていただきました。

壁一面がホワイトボードになっている教室やカフェのような自習室、誰もがが行ってみたいく

るすみっこ図書館など生徒が自ら学べる工夫がされています。

お忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。

H・H



次回 同窓会総会 令和6年6月1日(土)

事務局からの お知らせ

**「松楓」定期購読・
賛助金の申し込みは
郵便局の振込用紙で**

・振込用紙は、役員または飯能高校の事務室窓口で配布しています。
・振込手数料は無料です。

飯能高校同窓会では、卒業した同窓生の様子や学校の近況を、多くの会員の方々に知っていただきたく、毎年会報「松楓」を発行しています。

この「松楓」は、定期購読(5年間1000円)できます。また、同窓会の活動に賛同していただける皆様に、賛助金をお願いしています。

定期購読料、賛助金は、郵便局の振込用紙で振り込むことができます。どちらの振込用紙も、同窓会役員または飯能高校事務室窓口で配布しています。

定期購読、賛助金とも手数料は同窓会が負担し無料ですが、現金を振り込む場合は、現金取扱手数料として、窓口・ATMで110円必要になります。ゆうちょの口座から振り込む場合は、現金取扱手数料の負担はありません。

令和5年度同窓会役員一覧

顧問	矢鳥 得充(学校長)
	田中 晃一(16回卒)
	本橋憲一郎(20回卒)
	町田多加次(4回卒)
参与	澤田 清志(23回卒)
会長	都築 敏夫(24回卒)
副会長	(総務)
	中里 敏男(25回卒)
	(事務局長)
	新野代里子(28回卒)
	(会報)
幹事	佐野 勇(34回卒)
	豊田 美子(35回卒)
	嶋田 一幸(36回卒)
	若林 淳子(30回卒)
会計	奥田由記子(30回卒)
	原島 稔久(17回卒)
監事	鯨井 暢(28回卒)
会報委員	市川 光男(24回卒)
	細田 宏子(28回卒)
	嶋田 栄子(28回卒)
	矢鳥幸一郎(35回卒)
校内理事	小澤 真帆(65回卒)

「松楓」定期購読について

ご希望の方は、副会長都築(☎042・972・2257)または、同窓会役員までご連絡ください。

ホームページのご案内

パソコン又はスマホから「飯能高校同窓会」で検索しますと、ご覧いただくことができます。是非とも、多くの方にご覧いただけますように。



飯能高校同窓会 検索

住所等変更届

住所、氏名等が変更になったときは、事務局までご連絡をお願いいたします。

*同窓会ホームページお問い合わせアドレス
hankoudousoukai@gmail.com

原稿・写真募集

投稿者には、スゴイ特典
同窓会では、「松楓」の原稿を募集しています。テーマは、高校時代の思い出や現在の様子など何でもかまいません。文字数は800字程度でお願いします。また、昔の飯高の写真なども募集しています。ご応募いただいた写真はお返しいたします。

応募を希望する方は、役員に連絡するか、同窓会のホームページからご連絡ください。採用させていただいた方の特典として、掲載号から5年間「松楓」をお送りいたします。

令和5年度 学校の近況について



教頭 発智 祐助



教頭 山本 仁

令和5年度、飯能新校がスタートしました。4月7日「開校式並びに入学式」では、埼玉県教育委員会教育長をはじめ、来賓の飯能市副市長・PTA会長から、これからの飯能高校に期待する御祝辞をいただきました。

5月8日には新型コロナウイルス感染症が5類へと移行したことに伴い、様々な制約が緩和され、コロナ禍前の学校生活に戻りつつあります。

今年度新たに開設した「IC T室」、「ALC（アクティブラーニングクラス）」、「ラーニングコモンズ（自習室）」を活用し、本校の特色の一つである探究活動の充実を図っているところです。

目指す学校像にもあるように、進学を重視しつつ、多様な進路希望実現のため、生徒一人ひとり最

後まで伸ばし続ける面倒見の良い教科指導・進路指導を継続してまいります。

これからも地域の方々、同窓会の皆様のお力をさらにお借りしながら、生徒がたくましく生きる力を育てる教育を進めて行きたいと思えます。引き続き本校の教育にご理解・ご協力をいただければ幸いです。



ALC



ラーニングコモンズ

◎主な学校行事

4月 入学式(7日)

278名の新入生を迎えました。



4月 遠足(28日)

1年次生は川越に集合し、班ごとにクイズに答えながら各所を巡るスタンプラリーを行いました。2年生は修学旅行に向けて東京駅に集合し、班ごとに計画を立てて都内各所を見学しました。3年生は東京デイズニールランドに行き、親睦を深めました。最高の遠足日和で、生徒の様々な表情を見ることができました。

5月 PTA総会(13日)

当日は、公開授業ののち、各種委員会、総会が開催されました。令和4年度の事業・決算報告、令和5年度の事業・予算案は無事に承認されました。

6月 体育祭(1日)

不安であった天候にも恵まれ、暑い中で体育祭を行うことができました。今年は多くの保護者に来校いただき、生徒の一生懸命な姿をご覧いただきました。



卓球部

男子団体 県大会ベスト16
女子団体 県大会ベスト32

バドミントン部

男子ダブルス 県大会出場決定
女子ダブルス・シングルス 県大会出場決定

陸上競技部

男子400mR・1600mR・走り幅跳び・三段跳び・砲丸投げ・円盤投げ 県大会出場決定
女子円盤投げ・ハンマー投げ 県大会出場決定

弓道部

県大会出場

剣道部

女子個人県大会出場

写真部

埼玉高写連展奨励賞

華道部

高校生花いけバトル関東大会10位

令和4年度

バスケットボール部

県大会出場

チアダンス部

全国高等学校ダンスドリル選手権大会3位
全日本チアダンス選手権大会決勝大会JAZZ部門3位

ホッケー部

男子 関東大会出場 インターハイ(北海道)出場決定

女子 関東大会準優勝 インターハイ(北海道)出場決定

女子 関東大会準優勝 インターハイ(北海道)出場決定

◎部活動の大会実績等

(6月中旬までの主な活動状況)

令和5年度

母校だより

男子ホッケー部

顧問 鯨井 暢



男子ホッケー部は、昭和40年に創部されました。その間、2回の休部を経験しながら、令和4年度、飯能南高校との統合を機に復活を果たしました。飯能高校時代は、インターハイ準優勝、国体準優勝、関東大会優勝など輝かしい時期と、休部を経験した変動の56年間でした。飯能南高校は平成4年創部。インターハイベスト8、国体準優勝、全国選抜3位、関東大会優勝など成績を残し、32年間活動してきました。この間、両校ともに日本代表選手を輩出してきました。この伝統ある部を発展させるために、本校舎、南校舎の合



同チームで今年もインターハイ出場を決めました。インターハイについては、飯能南高校時代から18年連続出場を果たしており、今後も続けていく中で、上位を狙えるチーム作りをしていきたいと思えます。飯能市のホッケーは2度の国民体育大会を経験しており、「ホッケーのまち飯能」の中心は飯能高校・飯能南高校のOB・OGが担っています。現在、スポーツ少年団から中学、高校、大学、社会人、日本リーグの「アルダー飯能」まで各カテゴリーにチームがあるのも全国で数県しかありません。今後も卒業生が後進の育成に関わりその結果、飯能高校のホッケー部がさらに発展していくことがこれからの道筋に

なると思うので関係者に感謝しつつ、しっかりと活動していきたいと思えます。

*詳しくは、学校ホームページ、インスタグラムをご覧ください。

探究部

顧問 松田 洋一

はじめまして。今年度秩父高校より参りました。探究部顧問の松田と申します。新たな学校で新たに設立された探究部の顧問となりました。

飯能高校は探究的な学びの実践に力を入れています。これから探究部として、生徒が深い学びを得られるような仕組みづくりをしていきたいと考えています。まだ具体的な活動は決まっていません。これから生徒たちとともに何を実践するか考え、試行錯誤していきます。

顧問として抱えている活動イメージは「飯能」をテーマに様々な分野のことを調べ、様々な方々に出会いながら気づきを得ることです。その際には、ぜひともOB・OGの方々のご協力をいただきたい次第です。

生徒が日常的に関わる大人は学校教職員と保護者の方ぐらいです。多くの知識、経験値を持つ人生の先輩方に関わることが

できたら、大きな刺激を生徒は受けると思えます。

長期休業中には、生徒を学校外に連れ出し、広い世界を知ってもらおうと考えています。そして、同窓会の方々をはじめ地域の方々には飯能高校にお越しいただき、生徒と交流を持つ機会ができればとも考えています。

現在、メディアプラットフォームのnoteにて飯能高校探究部のページを運営中です。(QRコード先のページです) 部員と顧問で記事をできる限り毎日アップするよう心がけていきます。

探究部の活動の中で、生徒が他者と協働しながら自己に向き合い、生涯をかけて学び続けられるような土台づくりができることを願っています。



令和5年度人事異動

(退職)

教諭 大野 賢一

(転出)

教頭 廣瀬 和義(滑川総合高校)

教諭 押野 宏典(浦和東高校)

教諭 清水 直子(所沢北高校)

教諭 丸山 裕己(不動岡高校)

教諭 清水 優太(和光国際高校)

教諭 平塚 良幸(所沢商業高校)

教諭 竹内 唯郎

教諭 森西忠次郎

主任 内田弥生子(狭山工業高校)

主任専門員 山下 道夫

(転入)

教頭 發智 祐助(高校教育指導課)

教諭 垣内 太郎(芸術総合高校)

教諭 金子 瑞葵(川越高校)

教諭 松田 洋一(秩父高校)

教諭 友廣 将二(鶴ヶ島清風高校)

教諭 諸井 文哉(日高特別支援高校)

教諭 鈴木まなみ(初任者)

教諭 中澤 純(初任者)

教諭 青 宏起(豊岡高校)

教諭 植田 英子

スクールカウンセラー

濱野 祐子

業務教諭 矢野 徹

主任 宮本小百合(所沢商業高校)

「ICT 室等の紹介」



ICT 室

昨年度改修工事が行われ、新しくなった教室を紹介します。一つ目は、新校のコンセプトであるICT教育の充実を図るために視聴覚室からICT室へと改修されました。定員80名程度の広い部屋で、壁一面がホワイトボードになっている為、スクリーンとして投影することができ、視覚的にも印象に残りやすい授業が展開されています。

二つ目は、ALC（アクティブラーニングクラス）教室です。

少人数用の教室が全部で8教室あります。どの教室も壁一面がホワイトボードになっているため、プレゼンテーションを行いながら書き込むこともできます。グループ学習や話し合いが行いやすいように動く椅子が設置されています。

最後は、ラーニングcommons（自習室）です。セミナーハウスの1階を改修し、自習室として朝や放課後開放しています。カフェのようなおしゃれで落ち着いた環境でそれぞれが勉強できるようになっています。学習サポーターの方にも来ていただき、分からないことを丁寧に教えてもらうこともできます。



ALC 室



ラーニングcommons

令和5年3月卒業（高校75回）された同窓生の中から、左記の方が理事となりましたので紹介いたします。

同窓会理事名簿追加 （第75回卒業生 同窓会理事）

1組	神田 彩華
2組	春藤 美奈
3組	江藤 颯
4組	町田 陽凱
5組	宇津保 勝
6組	山崎 朝灯
学年代表	古川 和菜
	島田 乃亜
	岩谷 陽太
	濱田 美佑
	河野 穂乃花
	小島 陽翔
	町田 陽凱



今回47号の植物とカエルのイラストは『あまがえるのかくれんぼ』『あまがえるのぼうけん』『あまがえるのたんじょう』（たてのひろし／文 世界文化社）の絵を担当したかわしまはるこさん・37回卒の作品を転載いたしました。

編集後記

「松楓」47号の発行にあたり、原稿・写真等をお寄せくださった方々に心より御礼申し上げます。味わい深い文章に心が温まります。

今回、創立100周年という歴史の重さを感じるとともに、統合による新生飯能高校の未来に光が射すの見える会報となりました。先輩編集委員のプロ並みの仕事を想像しながらお読みいただくのも楽しいかと思えます。

Y・O

【編集委員】（◎編集委員長）

澤田 清志	矢島幸一郎
都築 敏夫	若林 淳子
中里 敏男	奥田由記子
◎新野代里子	佐野 勇
市川 光男	豊田 美子
細田 宏子	嶋田 一幸
嶋田 栄子	

会報「松楓」第47号

令和5年9月1日

編集・発行 同窓会

発行責任者 会長 澤田 清志

印刷 (有)ミネ五十子印刷

発行所 埼玉県飯能市

埼玉県立飯能高等学校内

飯能高等学校同窓会